



平成30年2月7日

各 位

会 社 名 アピックヤマダ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 押森 広仁
 (コード番号 6300 東証第二部)
 問合せ先 取締役企画部長 小出 篤
 (TEL. 026-275-2111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成29年7月31日に公表した平成30年3月期(平成29年4月1日～平成30年3月31日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,000	910	920	750	60.39
今回修正予想(B)	12,500	300	290	140	11.27
増減額(B-A)	△ 1,500	△ 610	△ 630	△ 610	
増減率(%)	△ 10.7	△ 67.0	△ 68.5	△ 81.3	
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	11,098	397	396	335	26.99

平成30年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,150	800	810	640	51.53
今回修正予想(B)	11,000	160	190	80	6.44
増減額(B-A)	△ 1,150	△ 640	△ 620	△ 560	
増減率(%)	△ 9.5	△ 80.0	△ 76.5	△ 87.5	
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	9,946	258	340	287	23.13

修正の理由

中国を中心とするスマートフォンの在庫調整が長引いたことから、半導体メーカーにおいてスマートフォン関連の半導体向け設備投資が当第3四半期においても本格化せず、想定以上の遅れが発生しました。この要因により当社の主力製品のひとつであるウェエハーレベル用コンプレッションモールド装置の受注が想定を下回る動きとなりました。なお、本格的に業績に寄与する時期は翌会計年度(平成30年4月以降)にずれ込む見込みです。

また、景気の回復とともに装置に使用する部材の調達が長期化していること、当社の売上を計上するための検収の基準を厳格化した社内制度の改定に伴い、売上を計上するための検収手続きが長期化していること等により、納期及び売上の遅延が発生しており、現時点で解消できておりません。

これらにともない、通期の連結及び個別の業績予想を修正いたします。

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上